

コンプラの考え方 実例を基に 中尾巧さんエッセー集「法曹一路」

元大阪高検検事長で弁護士の中尾巧さん(73)がエッセー集『法曹一路』(中央公論新社、1540円、写真)を刊行した。検察官として長く刑事司法の世界に身を置き、弁護士としても企業法務に携わってきた経験をもとに、法にまつわるさまざまな話題を取り上げている。

中尾さんは昭和47年に検事に任官。大阪地検検事正などを経て、札幌、名古屋、大阪の各高検で検事長を歴任した。退官後の



平成22年に弁護士登録し、業務の傍ら文筆活動にも取り組み、専門誌や同人誌に寄せたエッセーを再編した『法曹漫歩』『検事長雑記』(いずれも中央公論新社)などを刊行。好評を博し本著はその第4弾となる。

被疑者の起訴または不起訴を決定するための捜査を行うこと、裁判で被告人の犯罪を立証することが検事の主な仕事。なかでも全国で8人しかいない検事長は、その指揮をとる重職で内閣が任命し、天皇陛下に

認証される。

本著では著者が招かれた宮中儀式・行事の体験談を皮切りに、実例をもとに企業コンプライアンスの考え方や管理職としてのあり方を紹介。また、実際の事件を取り上げる場面では、検事としての捜査公判実務だけでなく、被疑者の更生を願う検事の心の揺れも読み取れる。

法曹界の話にとどまらず、多忙の合間を縫って出かけた旅にまつわるエッセーも。ノルウェーの古都トロンハイムの眺望が描かれたカバー絵など、著者本人が描いた水彩画も楽しめる。(入澤亮輔)